奥田豊三先生を悼む

弔　　詞

本会元理事長奥田豊三先生は，去る昭和 58 年 10 月 7 日朝 8 時 45 分，75 歳をもって逝去されました．永年その深い学識と洞察力をもって本会の運営に関与されてきたことに感謝するとともに，多くのことを教えていただいた私どもにとりましては，まことに哀惜の念耐え難いものがあります．

先生は昭和 37 年より 53 年まで 16 年の永きにわたって評議員を務められ本会の発展に尽力されましたが，特に 46 年から 48 年にかけては，理事長として本会の組織運営の改革のために絶大な指導力を発揮されました．この時期に敢えて理事長を引き受けられ，問題解決に努力されたことは多くの人に感銘を与えました．

先生は昭和 8 年東京大学理学部天文学科を御卒業になってから，東京天文台にお入りになりました．ここでは新しいツァイスの 26 インチ望遠鏡を用いて，我国における初期の天体物理学の観測研究に大きな足跡を残されました．その後昭和 17 年陸軍技師として測量に携わられてから 37 年に建設省国土地理院院長を御退官になるまで，戦中戦後の測地学・位置天文全般に亘って精力的に仕事を推進されました．この間麻布の東京大学天文学教室移転後の，経緯度原点の保存に努力されたことはよく知られています．また昭和 38 年に文部省緯度観測所所長になられてからは，木村先生以来の伝統を引きつぎ施設の充実・人材の確保に瞠目に値する手腕を振われ，大研究所としての基礎を作られたことは，多くの人によって認められていることであります．

緯度観測所御退官の後は，測量専門学校校長・測量協会会長などお忙しい日々のようでしたが，余暇を見つけてはスキー，ゴルフを楽しむスポーツマンでもありました．水沢市のゴルフクラブの初代会長をされたことも聞いております．また小柄ながらも闊達な先生は座談も巧みで，歯に衣を着せぬ独得な話法は，初対面の人でもいつの間にか談笑の輪にとけ込ます魅力をもっており，大

いに笑ったり，時には肝を冷やされたりした人も多かったと思います．

私どもは再びあの幅広い先生の御人格に接することはできませんが，日本の天文学も内外から再編を迫られている現在，先生の蒔かれた種を大切に育くみ大きな実りとなるよう一層の努力をしてまいります．

先生とのお別れに際し，日本天文学会を代表して謹んで御冥福をお祈りします．

昭和 58 年 11 月 1 日

社団法人　日本天文学会
理事長　古 在 由 秀